

令和元年度
文化芸術による子供育成総合事業
－巡回公演事業－

劇団風の子北海道 児童劇公演

あめ ひめ
マーレンと雨姫



文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につながることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



文部科学省

令和元年度 文化芸術による子供育成総合事業

「マーレンと雨姫」公演日程

種目	開催月日	開催都道府県 政令指定都市	市区町村	開催校	開催校以外の地元主催者
児童劇 12公演	10月29日(火)	埼玉県	春日部市	春日部市立武里南小学校	埼玉県教育委員会.春日部市教育委員会
	10月30日(水)	埼玉県	春日部市	春日部市立武里小学校	埼玉県教育委員会.春日部市教育委員会
	10月31日(木)	埼玉県	幸手市	幸手市立さかえ小学校	埼玉県教育委員会
	11月 1日(金)	埼玉県	深谷市	深谷市立岡部小学校	埼玉県教育委員会
	11月 5日(火)	埼玉県	入間市	入間市立高倉小学校	埼玉県教育委員会.入間市教育委員会
	11月 6日(水)	埼玉県	加須市	加須市立種足小学校	埼玉県教育委員会
	11月 7日(木)	埼玉県	三郷市	三郷市立立花小学校	埼玉県教育委員会
	11月 8日(金)	さいたま市	岩槻区	さいたま市立岩槻小学校	さいたま市教育委員会
	11月11日(月)	福島県	伊達市	伊達市立上保原小学校	福島県.伊達市教育委員会
	11月19日(火)	群馬県	富岡市	富岡市立黒岩小学校	群馬県.群馬県教育委員会
	11月20日(水)	群馬県	甘楽町	甘楽町立小幡小学校	群馬県.群馬県教育委員会
	11月21日(木)	群馬県	前橋市	前橋市立滝窪小学校	群馬県.群馬県教育委員会

劇団風の子北海道の歩みと作品

- 一九八二 東京の劇団風の子より独立して風の子北海道誕生。
- 一九八五 アイヌのユーカラをもとにした「森の笛がきこえる」製作。
- 一九八七 幼児向作品「めっききらもつきらどおんどん」「うそんこほんこ隊」
- 一九八九 「どんぐりと山猫」初演、一九九三年まで公演
- 一九九一 小型作品「小さい劇場」サハリン公演。九一年～九八年にかけて、サハリン人形劇場、モスクワイグラ劇場、ノボシビルスク人形劇場などを招聘。
- 一九九三 ニブヒ族を題材にした「天幕がある」製作。
- 一九九八 ドイツの昔話から「マーレンと雨姫」、遊びを中心とした「かぜのこひろば」製作。
- 一九九九 小型作品「うしろの正面なあんた」カナダ公演（バンクーバーフェスティバル）
- 二〇〇〇 宮沢賢治原作による「お月さまとゴシユ」、二〇〇九年まで公演。
- 二〇〇三 「どんぐりと山猫」再演。
- 二〇〇八 「十二の月の物語」製作。
- 二〇一四 「マーレンと雨姫」再演。

知ってますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



マーレンと雨姫

原作
脚色
上演台本
演出
美術
音楽
衣装
衣装協力
照明
道具製作
小道具製作
製作

テオドル・シュトルム
多田 徹
中島 茜
なるみてるまさ
有賀 二郎
小峯 三奈
岸 功
菊池 大成
小峯 三奈
住吉 アキヨ
相馬 寛之
金田 拓
小坂橋 恵
植村 直己

木村 智子
篠生 明
坂本 光司
菊地 真央
盛 かな
杉村 香凜

ものがたり

マーレンとアンドレースのくらす村では、この三年ほどまったく雨が降らず、畑の作物も育たず羊も牛も人間も水がほしくて息もたえだえです。

マーレンのお父さんの畑は、もとは水たまりだったので、今ではちようどよく乾いて青々と牧草が茂り、おかげで大金持ち。日照りさまさまです。

アンドレースのおばあちゃんから雨姫さまが眠ってしまったていと聞いたマーレンは、アンドレースと一緒に雨姫さまを探しに出かけます。焼けつくような地面から二人を邪魔しようとして出てきたのは、火の玉おやじエツケネツケペン！さあ、二人は、雨姫さまを起こすことができるでしょうか。

「マーレンと雨姫」を見てくださるみなさんへ

昔から人間は、日照り続きには雨乞いをしたり、大雨で洪水がおきたりすると、天の神さまにもう雨を降らせないでと祈りしたり、人間の力ではどうにもならないものをおそれたり、敬ったりしてきました。

でも人間たちが科学の力で自然を征服しようと思ったり、お金もつけのために山の木を切りすぎたり、好き勝手をするようになると雨姫さまも眠ってしまったのでしよう。

このお話はドイツのシュトルムという人が100年以上前に書きました。二人の子どもたちが村の人たちの困る様子をみて、雨姫さまがいることを信じて出かけていきます。

この劇を見て、みなさんがどんなふう感じて下さるのか楽しみにしています。

劇団風の子北海道について

劇団風の子北海道は、札幌に事務所と稽古場があります。一学期、二学期は小学生の皆さんのところで、三学期は幼稚園や保育園の子どもたちのところで劇をします。

北海道の子どもたちはもちろん、海を渡って東北地方、関東や関西や九州の子どもたちにも劇を見てもらって三十五年たちました。

毎日、劇の道具や楽器などをトラックに積んで日本中を旅しています。